

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒御査収のほどよろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

朝晩は随分冷え込むようになりましたが、日中は暖かくて着るものに困る今日この頃ですが、みなさまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

10月のある日、わたしはまた伊勢125社巡りの続きを歩いてきました。今回は伊勢市ではなく、松阪市の「神服織機殿神社」と「神麻統機殿神社」へお参りました。

どちらにも、神御衣祭(5月と10月の14日)に奉納する織物を織る御機殿(八尋殿)があり、その八尋殿の鎮守の神様が鎮座されています。神服織機殿神社では絹布を、神麻統機殿神社では麻布を織っているそうです。

斎宮駅から歩くこと1時間半で、神服織機殿神社につきました。中央に大きな八尋殿があり、予習が足りなかった私はそちらに手をあわせていました。そこにちょうど近所のオジサマが現れ、「神社は左の小さい方の建物だよ」と教えてくださいました。

次は神麻統機殿神社へ行くつもりだと話すと、車で送ってくださるというではないですか。すっかりくたびれていた私は、お言葉に甘えて連れて行っていただきました。

場所は2キロくらい離れているのですが、建物だけを見ると同じようなつくりになっていました。

どちらも神社というよりは、休日の工場のような静けさだなあ。おもしろいなあ。と思いました。

それぞれ域内に末社が8社あり、この日は2箇所を訪れただけで18社を巡ったことになりました。

また1時間ほどあるいて、斎宮歴史博物館を訪れました。

斎宮というのは、伊勢神宮に仕えた皇女・斎王の住まいです。

皇女は幼い頃に京の都から遠く松阪へ下向し斎宮で暮らします。ここで祈りの日々を過ごし、年に3度は伊勢神宮での神事に奉仕したそうです。

飛鳥時代から続いた斎宮は鎌倉時代に途絶えてしまい、斎宮が廃れたあとは「幻の宮」としての伝承だけが残っていたそうです。

長い長い歴史の中で、守り続けられたことや、途絶え忘れ去られてしまったこと、多くの積み重ねが今の日本をつくりあげていることへの畏敬。そして、後世へと続く未来への時の中では、自分自身もそのほんの小さな一片であること。凡庸な人生であっても、生きていることの重みを感じずにはられませんでした。

みなさまもどうぞお身体ご自愛くださいませ。

風邪などひかれませんように。



祓川

都から旅をした皇女が齋王宮に入る前に、こちらでお祓いをしたといわれています。



右の大きな建物が八尋殿



株式会社ユニコーン
大阪市中央区大手通 1-1-2
TEL06-6943-4560
FAX06-6920-5311